2019
RKMENGAZ
RACE TO Dakar
AFRICA
ECORACE
DAKAR
AFRICA
ECORACE
TÜRKMENGAZ
MOTUL
MONACO
ISUZU
BL 119 FW

東京中日スポーツ　2018年（平成30年）12月31日

篠塚70歳 いざ出陣

「もう一度サハラ砂漠を走りたくなった」

▲初出場の篠塚建次郎＝アフリカエコレース現地

サハラ砂漠を使ったクロスカントリーラリー競技アフリカエコレースが30日、モナコでスタートが切られ、元ダカールラリー総合2位の篠塚建次郎（70）＝いすゞD-MAX＝がコール地のセネガル・ダカールに向けて出発。同国がアフリカで最後まであるのはダカールラリー以来12年ぶり。競技は全行程ステージで来年1月13日にゴールする。

アフリカエコレース初出場

元気にスタート

地球の地を長距離で戦いが始まった。出発が遅れた篠塚は、現地時間の夜の第一元気にスタートを切った。

1月に開幕したダカールラリーは、もう一度サハラ砂漠を走りたくなって、今回モナコを出発後、フランスを経由して、ダカールを目指す。リアルダカールラリーとは、マダガスカルラリーセネガル・ダカールラリーの2つ。2つ目の人初の海外開催。出場は80台。ルートは、ほぼ同じ。ただ、その後は東南アジアを経由してモンゴルアクセス、ウーラーンバートルへ。ダカールラリーに一度はあこがれ。リタイアの連絡を呼ばれ、ゴールにハイ。ネガティブ・ダカールを目指すルートとなった。

今回は、篠塚の現地での活動は、開催地の政情不安で過年大会が中止になるなど、開催地は南米に移転。エコレースは、サハラ砂漠を使ったラリーとなり、篠塚の精神的な支柱となっている。

今回モナコを出発後、フランスを経由して、ダカールを目指す。リアルダカールラリーとは、マダガスカルラリーセネガル・ダカールラリーの2つ。2つ目の人初の海外開催。出場は80台。ルートは、ほぼ同じ。ただ、その後は東南アジアを経由してモンゴルアクセス、ウーラーンバートルへ。ダカールラリーに一度はあこがれ。リタイアの連絡を呼ばれ、ゴールにハイ。ネガティブ・ダカールを目指すルートとなった。

ゴールのローズ湖（ラックローズ）まで約7日間。ルートは約6000キロ。距離は約6000キロ。

一部現役の世代をはじめとしたさまざまな世代に元気を届けたい。参戦資金はインターネットを通じたクラウドファンディングなどを使って集め、出場にこぎつけた。

12年ぶりとなるアフリカの大地が待っている。

アフリカエコレース2019　参戦車両

篠塚建次郎